

## 1. 目的

戸田井排水機場は、昭和38年に設置され取手市・龍ヶ崎市の洪水被害を軽減していたが、建設から約50年が経過しており機械設備の老朽化が著しく、また、故障時の部品交換等も困難な状況であった。  
平成24年度より改築事業に着手し、特定構造物改築事業として改築を行い、平成28年度に完成している。

## 2. 事業概要

・事業概要：戸田井排水機場改築  
・事業期間：平成24年度～平成28年度(整備完了)  
・全体事業費：前回：約27億円 今回：約24億円

## 3. 位置図



## 4. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

- ・事業期間に変更は生じていない。
- ・事業費は機械設備価格の変動のため減。
- ・宅地開発のため氾濫区域内延べ床面積等、流域内の資産が増加。
- ・治水経済調査マニュアル(案)令和2年4月にに基づき費用対効果分析を実施。

【全体事業】		※B/Cは現在価値化後	
(前回)	(今回)	(前回)	(今回)
総便益B : 約194億円	総便益B : 約1,169億円	B/C : 6.3	B/C : 30.4
総費用C : 約29億円	総費用C : 約38億円		
B/C : 6.3	B/C : 30.4		

## 5. 事業効果の発現状況

・改築以降、年平均5回程度稼働しており、流域内では一度も家屋の浸水被害が発生していない。  
・令和元年東日本台風時に戸田井排水機場が機能しなかった場合、約512haの浸水、197戸(床上19戸、床下178戸)の浸水被害が生じる恐れがあった。



(R1.10洪水時の戸田井排水機場周辺の様子)

## 6. 事業実施による環境の変化及び社会経済情勢の変化

・流域内の桜ヶ丘地区では宅地開発が行われており、近年世帯数が増加。

## 7. 対応方針(案)

・本事業は目的を果たしているものと判断し、事業の有効性は十分見込まれていることから、今後の事業評価及び改善措置の必要性はなく、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しについても必要性はないと考える。

## 1. 目的

戸田井排水機場は、昭和38年に設置され取手市・龍ヶ崎市の洪水被害を軽減していたが、建設から約50年が経過しており機械設備の老朽化が著しく、また、故障時の部品交換等も困難な状況であった。  
平成24年度より改築事業に着手し、特定構造物改築事業として改築を行い、平成28年度に完成している。

## 2. 事業概要

・事業概要：戸田井排水機場改築  
・事業期間：平成24年度～平成28年度(整備完了)  
・全体事業費：前回：約27億円 今回：約24億円

## 3. 位置図



## 4. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

- ・事業期間に変更は生じていない。
- ・事業費は機械設備価格の変動のため減。
- ・宅地開発のため氾濫区域内延べ床面積等、流域内の資産が増加。
- ・治水経済調査マニュアル(案)令和2年4月にに基づき費用対効果分析を実施。

【全体事業】		※B/Cは現在価値化後	
(前回)	(今回)	(前回)	(今回)
総便益B : 約194億円	総便益B : 約1,170億円	B/C : 6.3	B/C : 30.4
総費用C : 約29億円	総費用C : 約38億円		
B/C : 6.3	B/C : 30.4		

## 5. 事業効果の発現状況

・改築以降、年平均5回程度稼働しており、流域内では一度も家屋の浸水被害が発生していない。  
・令和元年東日本台風時に戸田井排水機場が機能しなかった場合、約512haの浸水、197戸(床上19戸、床下178戸)の浸水被害が生じる恐れがあった。



(R1.10洪水時の戸田井排水機場周辺の様子)

## 6. 事業実施による環境の変化及び社会経済情勢の変化

・流域内の桜ヶ丘地区では宅地開発が行われており、近年世帯数が増加。

## 7. 対応方針(案)

・本事業は目的を果たしているものと判断し、事業の有効性は十分見込まれていることから、今後の事業評価及び改善措置の必要性はなく、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しについても必要性はないと考える。